

東日本大震災に関する農業農村工学会の取組み

東日本大震災で逝去された方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心からのお見舞いを申し上げます。

本会は、東日本大震災に対し、発生直後から災害対応特別委員会により調査団の派遣、提言、データの提供等を行っており、また、研究委員会により復興計画に関する提言に向けた調査を行っております。

これらの調査報告、提言等は学会誌、ホームページを通じて情報提供しております。

皆様からのさらなる情報提供、提言をお待ちしております。

会 告

○第 22 期理事役職者の選任および会務分担の変更について	60
○平成 23 年度農業農村工学会賞の決定について	60
○サマーセミナー 2011 参加者募集！	60
○第 35 回水の週間「ウォーターフェア '11 東京」農業用水の展示出展について 開催日 7 月 29～31 日	61
○平成 23 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い ⑧ 開催日 7 月 30 日	61
○平成 23 年度「研究グループ」の助成金募集について（再） 申請締切 6 月 30 日	61
○平成 23 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について（再） 申請締切 9 月 16 日	62
○「農業農村工学会学術基金」への募金について	62
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について	63
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	63
○平成 24 年の表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	64
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	64
○国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について	65
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ	65
○第 62 回関東支部大会の開催について（第 1 報） ⑧ 講演申込締切 7 月 29 日	66
○第 68 回京都支部研究発表会の開催について（第 2 報） ⑧ 発表申込締切 6 月 30 日	66
○中国四国支部第 66 回支部講演会ならびに第 35 回地方講習会の開催について（第 1 報） ⑧ 講演原稿締切 9 月 9 日	68
○第 32 回農地保全研究部会研究集会の開催について（第 2 報） ⑧ 参加申込締切 10 月 15 日	69
○第 21 回農村道路研究部会研究集会・現地研修会の開催について（第 1 報） ⑧ 開催日 11 月 1, 2 日	70
農業農村工学会論文集第 273 号内容紹介	71
学会記事	73

第 79 巻第 7 号予定

展望：縮小社会における農業農村整備への期待：高橋 強

小特集：縮小する社会における農業農村整備のかたち

- ①東日本大震災・財政再建・人口減少の影響化の社会資本整備の方向：丹治 肇
- ②地域経済から見た農村の再生・活力向上と技術の役割：北川 巖ほか
- ③空き家利用の農村移住は過疎活性化策になり得るのか？：牧山正男
- ④農業用配管施設の利水・更新に関する受益者意向の実態評価：鈴木哲也ほか
- ⑤水理情報を基にした低コストかつ省力的な水路施設管理手法の提案：中矢哲郎ほか

技術リポート

- 北海道支部：地力の維持と低コストをめざした石礫破碎工法：後藤 准ほか
 東北支部：青森県環境保全型水路「ハイ！アガール」の開発：吹田全弘
 関東支部：既設堰堤を活用した溪流取水工兼魚道工の設計と施工：平林孝保ほか
 京都支部：頭首工における低周波騒音対策：白枝 健
 中国四国支部：遠隔制御によるため池の水位管理システム：佐々木伸浩ほか
 九州支部：中山間地域におけるほ場整備の施工事例：猿渡 亨

小講座：縮小社会：清水 亮

私のビジョン：これからの水田水管理について考える：中村公人

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成23年8月 25, 26日	農村計画研究部会	第33回現地研修集会	ⓑ 未来への農業水利施設の継承	弘前市	79巻2号
平成23年9月 6～9日	大会運営委員会	平成23年度農業農村工学会大会講演会	ⓑ	福岡市	78巻12号 79巻1,3号
平成23年10月 20, 21日	関東支部	第62回大会講演会	ⓑ	静岡市	79巻6号
平成23年10月 20, 21日	中国四国支部	第66回講演会・第35回地方講習会	ⓑ	高知市	79巻6号
平成23年11月 10, 11日	農地保全研究部会	第32回研究集会	ⓑ 中山間地域における農地保全と耕作放棄対策	甲府市	79巻4,6号
平成23年11月 1, 2日	農村道路研究部会	第21回研究集会・現地研修会	ⓑ 農道のストックマネジメント	鹿児島市	79巻6号
平成23年11月 17, 18日	京都支部	第68回研究発表会	ⓑ	奈良市	79巻4,6号

第22期理事役職者の選任および会務分担の変更について

平成23年5月19日開催の第219回理事会において、理事の互選(定款第20条第2項)により専務理事を選出したほか、第22期理事の会務分担および常置委員会委員長等を次のとおり定めた(下線は変更になった理事役職者)。

記

- ・専務理事 小前隆美 ((社) 農業農村工学会)
- ・理事の担当部門

【担当部門】【総括する副会長】 【担当理事】

学会誌等定期 佐藤政良 岩崎和己, 塩沢 昌, 高見浩三,
刊行活動 春山成子, 村上 章, 辻 修,
佐藤照男, 木村和弘, 内田一徳,

北村義信, 高木 東
講演会等行事 大堀忠至 野中資博, 有好利典, 岩崎和己,
活動 戸澤正彦, 中山 晃, 溝田大助
出版活動 大堀忠至 大島洋介, 有好利典, 岩崎和己,
渡邊紹裕
技術者育成 中條康朗 中山 晃, 平松和昭, 塩沢 昌,
活動 有好利典, 岩崎和己, 高見浩三,
戸澤正彦, 野中資博, 溝田大助
・常置委員会委員長
出版企画委員会 岩崎和己

平成23年度農業農村工学会賞の決定について

平成23年度の農業農村工学会賞は、平成23年5月19日(木)の理事会において、学術賞2件、研究奨励賞4件、優秀論文賞2件、優秀技術賞2件、優秀技術リポート賞5件、著作賞1件、教育賞1件、環境賞1件、歴史・文化賞2件、地域貢献賞1件、国際貢献賞1件、メディア賞1件、功労賞3

件、上野賞2件、沢田賞1件が決定いたしました。授与式は、来る9月6日(火)に九州大学創立50周年記念講堂で行われます。なお、詳細は本号巻頭平成23年度農業農村工学会大会講演会のページを参照下さい。

サマーセミナー 2011 参加者募集!

2011年度テーマ「九州での農業工学の現状を知り将来の農業工学のあり方について考える」

みなさんサマーセミナーをご存じですか? サマーセミナーとは、農業農村工学を学ぶ学生を対象に行う、学生・院生自主企画のセミナーです。今年で14回目の開催となり、毎年北から南までさまざまな大学の学生が参加しています。

今回は九州諫早湾を舞台とし「九州での農業工学の現状を知り将来の農業工学のあり方について考える」をテーマに掲げています。農業農村工学の歴史、現状、そして未来について、こ

れからの農業農村工学を担う私たち学生がしっかりと考えていかねばなりません。研究室を飛び出し、普段関わらない人や場所に触れ、凝り固まった頭を柔らかくしてこれからの農業農村工学について一緒に議論してみませんか? 皆様のご参加を是非お待ちしております!

1. 主催

農業農村工学サマーセミナー実行委員会

- ・吉野亜香利 (東京大学大学院農学生命科学研究科)
- ・田畑 俊範 (九州大学大学院生物資源環境科学府)
- ・橋本 紗希 (茨城大学大学院農学研究科)
- ・山崎 琢平 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

2. 日 時 2011年9月9日(金)～10日(土)

3. 開催地(予定)

福岡県周辺(研修地, 宿泊地等は現在検討中)

4. 参加費用(宿泊費等) 10,000円前後

5. 詳細・参加申込み

申込みは以下のホームページからお願いします。詳細を随時公開する予定です。

URL: <https://sites.google.com/site/jsidress2011/>

6. 問合せ

E-mail: summerseminar2011@gmail.com

第35回水の週間「ウォーターフェア'11東京」農業用水の展示出展について

農業用水展示実行委員会

国土交通省, 東京都, 水の週間実行委員会主催「ウォーターフェア'11東京」は例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。今年も「水の展示会」に農業用水部門として, 関係諸団体の協力を得て, 農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し, 昨年までと同様に展示の準備を進め出展

することとなりました。

多くの方の来場をお待ちしております。

展示の場所 科学技術館(千代田区北の丸公園2-1)

期 日 平成23年7月29日(金)～31日(日)

9:30～16:50(初日のみ10:30～)

平成23年度JABEE農学系分野審査講習会への参加のお願い

技術者教育認定に関する検討委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



本年もJABEE農学系分野審査講習会が7月30日に東京大学弥生講堂にて開催されます。多くの皆様の参加を期待しております。本講習会はJABEE公認で, 講習会の参加修了者はJABEE審査員候補者として登録され, 本審査のオブザーバー参加を経て審査員の資格が得られます。奮って, ご参加下さい。(なお, プログラム, 参加申込書等, 詳細は決定次第農業農村工学会ホームページに掲載する予定です。)

1. 日 時 平成23年7月30日(土)9:25～17:30
(17:30より情報交換会あり)

2. 場 所 東京大学弥生講堂

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学農学部内

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

講習会および情報交換会参加費・申込方法については農業農村工学会ホームページでご確認のうえ, 申込書および審査員登録票(電子メール版)をダウンロードし, 必要事項を記入のうえ, 下記へ電子メールでお申し込み下さい。

3. 申 込 先 農業農村工学会事務局 花塚賀央
E-mail: hanatsuka@jsidre.or.jp

4. 申込締切 平成23年7月20日(水)

平成23年度「研究グループ」の助成金募集について(再)

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし, 下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則1件20万円程度, 3件以内です。

本年度の申請締切は, 平成23年6月30日(木)ですので, 助成金を希望される方は期限までに, 所定の様式(学会HP参照)で研究委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関, 行政, 大学, 民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請: 学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上, 「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお, 申請者の資格は, 後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。

2. 認定: 研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき, その可否を認定し, 学会長に報告する。

3. 配布: 研究委員会は認定した「研究グループ」に対し, 「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし, その配布は原則として1年とする。

4. 助成対象: 申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち, しかもその研究分野が現在立ち遅れており, それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし, 構成員は自らその研究に携わる分担者であるこ

と。

(ハ)「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

(ニ)「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に40歳未満であること。

5. 活動報告:助成金を配布された「研究グループ」は助成金

配布後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。この報告については、研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

注)研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり1~2ページに収まるようにまとめること。

平成23年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について(再)

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度(原則1件20万円以内)です。

本年度の申請締切は平成23年9月16日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請:学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定:研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成金の配布グループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 配布:研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。

4. 助成対象:申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ)具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ)「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

5. 活動報告:助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切:平成23年9月16日(金)

申込先:戦略的研究推進小委員会委員長宛

E-mail: tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項:

- (1) WG名(または部会名)
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

「農業農村工学会学術基金」への募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交

流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成 22 年度までに 56 件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000 円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000 円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿 (2 年ごと更新) に記載して、緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則 2～3 日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する (年度予算限度額 300 万円)。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail : saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数のご参加をお待ちしております。

なお、登録いただいた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

行事企画委員会

技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

学会誌を出典とした CPD 通信教育を実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 CPD ポイント、また、通信教育で最大年間 24 CPD ポイントが取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の正・学生会員で、かつ CPD 個人登録者は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd>) にある参加申込書に必要事項を記入してメール (E-mail : kaito@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX (03-5777-2099) でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会への入会、また、技術者継続教育機構への登録を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限 参加は、いつからでも可能です。

3. 内容

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から、CPD 運営委員会通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成します。回答はメール (E-mail : kaito@cpd.jsidre.or.jp) で機構に送信していただきます。

採点の結果、7 割以上正解で 1.5 CPD ポイント、満点で 2.0 CPD ポイントが取得でき、CPD 個人登録者の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

4. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

5. 通信教育受講者の特典

採点結果は自動入力されますので、毎年 4 月中に取得した

点数を希望者にお知らせし、5月上旬から希望により有料で「CPD取得証明書」を発行します。

平成24年の表紙写真の募集

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成24年発行の学会誌も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。平成24年分の募集からテーマが変わりました。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第80巻（平成24年1～12月号）

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定）撮影して下さい（サイズは六ツ切）。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 春季 平成23年6月30日

夏季 平成23年9月30日

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第80巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成24年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1点につき3万円）をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用权

採用作品の使用权は（社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（社）農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 79, 80 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
79 巻 8 号 若者や消費者と農業・農村のかかわり (仮)	公募終了
9 号 農業土木遺構にみる技術の粋 (仮)	公募終了
10 号 愛知用水通水 50 周年 (仮)	公募なし
11 号 再生水の農業利用の動向と課題 (仮)	公募なし
12 号 地球環境 (地球温暖化) 問題への取組みと今後の課題 (仮)	公募なし
80 巻 1 号 農業農村工学分野におけるアウトリーチ活動 (仮)	平成 23 年 8 月 25 日
2 号 世界的な塩害に関する動向 (仮)	平成 23 年 9 月 22 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々から国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっております。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)

- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年 4 回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発行スケジュール: 年 4 回 (3, 6, 8, 12 月)

国際学会会費: 正会員 12,000 円 (農業農村工学会員に限る)
学生会員 (院生含む) 8,500 円 (農業農村工学会員に限る)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2011 年 3 月末に Vol.9, No.1 が発行されました。

本ジャーナルは 2009 年 12 月より、トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得に

より高い評価を得ております。

また、世界 13 カ国から Editor (23 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer-Verlag 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、投稿

料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）は、台湾です。なお、2010年10月1日付で、これまで編集長を勤めていただいた中野芳輔先生から、溝口 勝先生に編集長の交代がありました。

投稿先：Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No. 1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C)

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

TEL : +8862-2-3366-3467 FAX : +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

・ Editor-in-Chief : Dr. Masaru Mizoguchi (Japan)

Graduate School of Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

・ Editors 13 カ国から 23 名

・ Editing Board 35 名

・ Managing Editors

Chief Managing Editor : Prof. Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Republic of China

Prof. Dr. Yoshiyuki SHINOBU

Faculty of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka, Japan

Prof. Dr. Haruhiko HORINO

Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Prof. Dr. Jin-Yong CHOI

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Seoul, Korea

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載しています。

第 62 回関東支部大会の開催について（第 1 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日 時

- (1) 支部大会、講演会、情報交換会
平成 23 年 10 月 20 日（木）時間未定
- (2) 現地研修会 平成 23 年 10 月 21 日（金）時間未定

2. 場 所

- (1) 支部大会、講演会、情報交換会
静岡県静岡市清水区島崎町 223
静岡市東部勤労者福祉センター『清水テルサ』

- (2) 現地研修会 未定

3. 参加申込み

- (1) 講演会、情報交換会、現地研修会
上記申込締切日：平成 23 年 8 月 31 日（水）
- (2) 講演申込み

申込締切日：平成 23 年 7 月 29 日（金）

原稿締切日：平成 23 年 8 月 31 日（水）

講演申込み希望者は、「講演者所属および氏名」、「演題（仮題でも可）」、「講演要旨(200 字以内)」を明記のうえ、下記事務局まで申し込み下さい。

4. 問合せ先（事務局）

静岡県交通基盤部農地局農地計画課

〒420-8601

静岡県静岡市葵区追手町 9-6

☎054-221-2723 FAX 054-221-2449

E-mail : noukei@pref.shizuoka.lg.jp

5. その他

詳細は本誌 7 月号に掲載予定です。

第 68 回京都支部研究発表会の開催について（第 2 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 研究発表会

- (1) 日時 平成 23 年 11 月 17 日（木）
10：00～17：00（受付開始 9：00～）
- (2) 会場（開会式～講演会～分科会）

奈良県文化会館（奈良市登大路町 6-2）

- (3) 会場までのアクセス
近鉄奈良駅東改札口①出口より東へ徒歩約 5 分
JR 奈良駅より東へ徒歩約 20 分

2. 情報交換会

- (1) 日時 平成 23 年 11 月 17 日 (木) 18:00~20:00
 (2) 会場 奈良県文化会館 小ホール

3. 現地研修会

- (1) 日時 平成 23 年 11 月 18 日 (金)
 9:00 県立美術館前発
 16:00 近鉄奈良駅・JR 奈良駅着

(2) 内容

「大和茶コース」

- ①経営体育成基盤整備事業 田原地区 (奈良市矢田原町ほか)

カンヌ映画祭でグランプリを獲得した河瀬直美監督の「殯の森」の舞台となった田原地域で約 186 ha のほ場整備を実施中です。地元施工による鳥獣害防止柵の直営施工や「農地・水・環境保全向上対策」の取り組みなど、住民が丸となって地域の活性化に取り組んでいます。

- ②広域農道整備事業 奈良東部地区 (奈良市中之庄町)

平成 23 年 2 月に幅員 7.0 m, 延長 1,124 m の広域農道トンネルの掘削が始まりました。工事中のトンネル工事を視察できます。

- ③道の駅「針テラス」(奈良市針町)

農産物の直売所や、観光イチゴ農園、温泉施設など何でもそろっている道の駅です。昼食休憩を兼ねてゆっくりと見学して下さい。

- ④県営畑地帯総合整備事業 月ヶ瀬桃香野地区 (奈良市月ヶ瀬桃香野)

国営総合農地開発事業により造成された畑で、県のリーディング作物である「大和茶」を大規模経営しているお茶の一大産地です。本事業によって、かんがい施設の整備を進めており、ドリップチューブによる点滴かんがい方式を採用し、効率的な生産に取り組んでいます。

「あすか歴史コース」

- ①国営農業用水再編対策事業 大和紀伊平野地区 (明日香村)

奈良県の水田農業を支えている吉野川分水のリフレッシュ工事を現在国営事業により実施しています。明日香村という歴史的風土を配慮した整備をみていただきます。

- ②夢市茶屋 (明日香村)

石舞台に隣接する農村レストランです。明日香村内の旬の野菜や果物をはじめ、古代米などを使った昼食をご堪能下さい。また、隣接する「明日香の夢市」では、新鮮な農産物やこだわりの加工食品が販売されています。

- ③ふるさと農道整備事業 高市地区 (明日香村～高取町)

平成 21 年に開通した明日香村と高取町を結ぶ全長 2,500 m の農道です。農産物の輸送の効率化はもとより、地域のアクセス道路、歴史的な観光地を結ぶ道路として貢献しています。また、ウォーキングで訪れた人々が安全に

歩くことができるよう、景観に配慮した歩道整備も行っていきます。

- ④基幹農道整備事業 大淀御所地区 (大淀町～御所市)

今年 3 月に全線が開通した全長 7,300 m の農道です。途中、鉄道との立体交差部において、非開削工法 (PCR 工法) によるアンダーパス工事を実施しました。また、今回は部材を 2 本ずつ入れるダブルエレメント工法 (全国 2 例目) によりコスト縮減を図りました。

4. 研究発表の申込み

研究発表者は、投稿原稿に先立ち、6 月末日までに、①表題 (仮題でも可)、②発表者名、所属、年齢 (研究奨励賞対象者のみ)、③連名者名、所属、年齢 (研究奨励賞対象者のみ)、④希望発表部門 (水理、水文・気象、土壤物理、土質力学、応用力学、材料・施工、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震・その他)、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者の E メールアドレスを簡条書きにしたメールを下記の発表申込先・神戸大学長野宛にご送付下さい (件名を「発表申込み」として下さい)。メールアドレスをお持ちでない場合は CD (txt ファイル) をご郵送下さい。ただし、発表者は学会員に限らせていただきます。

なお、京都支部では、大学、短期大学、研究機関に所属する発表時 35 歳以下の会員 (学生会員も含む) によって口頭発表された優秀な研究に対し、研究奨励賞を授与しています。同賞の受賞基準に該当する方 (35 歳以下の連名者を含む) は、必ず申込書に年齢を記入して下さい。

5. 投稿要領など

- (1) 原稿投稿先および期限

研究発表申込みをされた方は、下記の投稿要領に基づき作成した講演要旨原稿 2 部に投稿票 2 部 (様式は、<http://www.jsidre.or.jp/newinfo/kyoto-kh.htm> よりダウンロードして下さい) を添えて、平成 23 年 7 月末日までに、下記・神戸大学長野宛にご郵送下さい。またメールにて発表原稿 (PDF もしくは MS ワード) と投稿票 (MS エクセル) をご送付下さい。

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
 神戸大学大学院農学研究科 長野宇規
 TEL&FAX 078-803-5904
 E-mail : naganot@ruby.kobe-u.ac.jp

- (2) 投稿要領

- ・投稿発表者は、農業農村工学会会員とします。
- ・投稿要領および原稿の書式については、農業農村工学会ホームページ内の「発表申込票 (投稿票) と投稿要領」 (<http://www.jsidre.or.jp/newinfo/kyoto-kh.htm>) を参照して下さい。枚数は図面を含めて 2 枚とします。発表時間は 12 分 (質疑応答は 3 分) です。原稿はそのまま印刷しますので、鮮明なものを提出して下さい。発表の補助道具としてパソコン (OS は WindowsXP,

ソフトはPowerPoint 2003)を準備します。データはCD-R, USB メモリーをご用意下さい。(OHP, ビデオプロジェクトを希望する場合はご連絡下さい。)

6. 参加申込方法

(1) 参加申込み

参加申込みは、農業農村工学会ホームページ内の京都支部研究発表会参加申込みについて (<http://www.jsidre.or.jp/newinfo/kyoto-kh.htm>) にアクセスし、参加申込書をダウンロードして下さい。参加申込書に必要事項を記入の上、FAX または郵送にて下記申込先まで送付していただきますようお願いいたします。

(2) 申込期限 平成 23 年 9 月 2 日 (金)

(3) 参加費等 研究発表会 4,500 円

情報交換会 4,500 円

現地研修会 5,000 円 (昼食代含む)

参加費の納入

申込みを受け付けた後、近畿日本ツーリスト(株)奈良支店より10営業日以内に確認書・請求書を送付いたしますので、内容を確認のうえ、参加費を「7. 申込み・問合せ先、振込先」の振込先へ10月14日(金)までにお振り込み下さい。振込手数料については振込人負担でお願いします。

なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承下さい。

(4) 昼食

会場付近にレストラン等はございますが、混雑が予想されます。弁当を1,000円/個(税込み・お茶付)で事前予約にて受け付けていますので、ご希望の方は参加申込書にてお申込み下さい。

(5) 宿泊施設の斡旋

宿泊の斡旋は、近畿日本ツーリスト(株)奈良支店を通じて行います。ご要望の方は、農業農村工学会ホームページ内の京都支部研究発表会参加案内の宿泊斡旋施設一覧表の中からホテルをお選びいただき、該当するホテルの記号を参加申込書に記入して下さい。なお、客室数の都合上ご希望に添えない場合がございますのでご了承下さい。

7. 申込先・問合せ先、振込先

(1) 申込先・問合せ先

近畿日本ツーリスト(株)奈良支店

「第68回農業農村工学会京都支部研究発表会係」

〒630-8241 奈良県奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル3F

E-mail: kjc-event9@gp.knt.co.jp

☎050-3786-5514 FAX 050-3786-7519

営業時間: 平日 10:00~17:45 (土日祝日休業)

* 宿泊、昼食弁当などの変更・取消につきましては、お送りする確認書の変更事項を記入の上、FAXにてご連絡をお願い致します。

(2) 振込先

三菱東京UFJ銀行 千代田支店

普通預金 2563720

口座名 近畿日本ツーリスト株式会社

8. 事務局

奈良県農林部農村振興課内

第68回農業農村工学会京都支部研究発表会 開催地事務局

担当 平岡, 外蘭, 谷川

☎0742-27-7463 (直通) FAX 0742-24-5179

E-mail: hokazono-toshio@office.pref.nara.lg.jp

tanigawa-shinichi@office.pref.nara.lg.jp

中国四国支部第66回支部講演会ならびに第35回地方講習会の開催について(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 支部講演会

日時: 平成 23 年 10 月 20 日 (木) 9:00~16:30

会場: 高知市文化プラザかるぽーと

〒780-8529 高知市九反田 2-1

☎088-883-5011

<http://www.bunkaplaza.or.jp/>

プログラム: 未定

2. 情報交換会

日時: 平成 23 年 10 月 20 日 (木) 18:00~20:00

会場: 高知会館

〒780-0870 高知市本町 5-6-42

☎088-823-7123

<http://www.kochikaikan.jp/>

3. 地方講習会

日時: 平成 23 年 10 月 21 日 (金) 9:00~15:00

会場: 高知市文化プラザかるぽーと

〒780-8529 高知市九反田 2-1

☎088-883-5011

<http://www.bunkaplaza.or.jp/>

プログラム: 未定

4. 問合せ先・申込窓口

(1) 支部講演会・情報交換会・地方講習会に関する問合せ先

高知県農業振興部農業基盤課 橋田, 椋田

〒780-0850 高知市丸ノ内 1-7-52

☎088-821-4561 FAX 088-821-4567

E-mail: 161101@ken.pref.kochi.lg.jp

(2) 参加申込み・講演発表原稿提出先

高知大学農学部門 佐藤周之
〒783-8502 南国市物部乙 200
☎088-864-5150 FAX 088-864-5150
E-mail : syu@kochi-u.ac.jp

5. 投稿・講演要領

(1) 講演原稿

講演原稿は、図、表、写真などを含め1課題3ページ以内とします。

投稿者は、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) の支部講演会投稿要領に従って原稿を作成し、原稿をPDFにしたファイルと投稿票をメールにより上記講演発表原稿提出先あてにお送り下さい。投稿票ファイルは学会のホームページからダウンロードして下さい。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」として下さい。受領確認はメールで返信しますので、受領はがきは不用です。なお、発表時期や発表方法などについては、事務局から連絡をする場合がありますので、講演者(○印)の方は必ず連絡先メールアドレスをお書き下さい。

原稿はPDFを原則としますが、それが可能でない場合は市販のA4版上質紙(コピー用紙などをご利用下さい。感熱紙は不可)に印字したモノクロ原稿を、支部講演会投稿要領に従って投稿票とともに郵送して下さい。

(2) 発表資格

発表者のうち、少なくとも1名が会員であることが必要です。

(3) 講演方法

個人発表とし、講演補助として、液晶プロジェクターのみ準備します。

(4) 講演時間

1課題につき12分程度です。

(5) 講演要旨集

申込みのあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、印刷はモノクロとなります。

(6) 参加申込み

講演者は講演申込みとは別に参加申込みも行い、必ず参加費を納入して下さい。なお、参加申込書等詳細は第2報でお知らせする予定です。

(7) 原稿の締切

平成23年9月9日(金)必着(遅延は不可)

(8) 講演申込みおよび問合せ先

高知大学農学部門 佐藤 周之
〒783-8502 南国市物部乙 200
☎088-864-5150 FAX 088-864-5150
E-mail : syu@kochi-u.ac.jp

6. 詳細

講演会、情報交換会および地方講習会の詳細については、本誌8月号に掲載予定の第2報にてお知らせ致します。

第32回農地保全研究部会研究集会の開催について(第2報)

テーマ「中山間地域における農地保全と耕作放棄対策」

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農地保全研究部会では、第32回研究集会および現地研修会を開催します。プログラムや参加申し込みについては下記のとおりです。

1. 開催日

- (1) 研究集会 平成23年11月10日(木)
- (2) 現地研修会 平成23年11月11日(金)

2. 場所

- (1) 研究集会 甲府市ベルクラシック・コンチェルト
〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1-1-17
☎055-254-1000
- (2) 現地研修会 山梨県北杜市, 甲斐市

3. プログラム

- (1) 研究集会
 - 9:30~10:00 受付
 - 10:00~10:10 部長挨拶 東京農業大学 駒村正治
 - 10:10~11:10 基調講演「中山間地域における農地保全について」 東京大学 宮崎 毅
 - 11:10~12:00 講演1「明野における耕作放棄対策」
明野茅ヶ岳土地改良区常務理事

- 三井金彦
- 12:00~13:00 昼食(会館内および駅周辺の食堂をご利用下さい。)
- 13:00~13:45 講演2「中山間地域における鳥獣害防止対策」 山梨県総合農業技術センター
環境部環境保全・鳥獣害対策科
本田 剛
- 13:45~14:30 講演3「耕作放棄による水田の多面的機能喪失」
中央農業総合研究センター 小倉 力
- 14:30~14:45 休憩
- 14:45~15:30 講演4「耕作放棄の実態と新担い手による活性化」
ビンテージファーム(株) 山田守郎
- 15:30~16:10 情勢報告「東日本地震関連(土地改良の特例法・除塩等)」
農林水産省農村振興局 佐藤具揮
- 16:10~17:20 総合討論
- 17:20~17:30 閉会挨拶

- 18:00~20:00 情報交換会
会場：ベルクラシック・コンチェルト
- (2) 現地研修会
8:40~8:55 受付(受付場所はJR甲府駅北口)
9:00 甲府駅発
9:40~10:40 北杜市明野茅ヶ岳土地改良区内
10:50~11:10 ヴィンテージファーム(須玉町)
11:50~13:00 昼食 おいしい学校(須玉町)
13:00~13:30 北杜市須玉町鳥獣防止地区
14:20~15:40 甲斐市ワインブドウ園
16:30 甲府駅着 解散
(なお、スケジュールについては一部変更の可能性があります)

4. 参加費および申込み

- (1) 参加費 研究集会 3,000円
情報交換会 5,000円
現地研修会 4,000円(昼食代1,000円含む)
- (2) 申込み・問合せ先 東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科
農地環境工学研究室 藤川
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
☎03-5477-2340
- (3) 申込締切 平成23年10月15日(土)
- (4) 支払い方法 銀行振込
三井住友銀行 経堂支店 普通 6887245
農業農村工学会農地保全研究部会 部会長 駒村正治

第21回農村道路研究部会研究集会・現地研修会の開催について(第1報)

特定課題「農道のストックマネジメント」

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農村道路研究部会では、以下のとおり第21回研究集会および現地研修会を開催しますので、ご案内いたします。多くの皆様の参加をお待ちしております。

1. 期日 平成23年11月1日(火) 研究集会
平成23年11月2日(水) 現地研修会

2. 研究集会

- (1) 日時:11月1日(火)13:00~17:00(受付開始12:30)
(2) 会場:かごしま県民交流センター

(〒892-0816 鹿児島市山下町14-50)

- (3) 参加費:4,000円/人

3. 現地研修会

- (1) 日時:11月2日(水)9:00~15:00(予定)
(2) 研修地:鹿児島県内の農道など(詳細は次号以降に掲載予定)
(3) 参加費:3,000円/人(会費には昼食代1,000円が含まれます。)

地域環境工学シリーズ9

食の安全と地域の豊かさを求めて

— 新しい畑整備工学 — (社)農業農村工学会発行

目次

- | | |
|--|--|
| <p>I. わが国の畑作の歴史と特徴</p> <p>1. わが国における畑作の歴史</p> <p>2. 営農形態別の特徴</p> <p>3. 畑整備の現状</p> <p>4. 国際情勢、社会情勢の変化</p> <p>5. 中山間地域における畑整備</p> <p>II. 畑整備の基礎</p> <p>1. 作物と水</p> <p>2. 畑地基盤と畑作農業</p> | <p>3. 畑地の整備手法</p> <p>III. 畑整備の今後の展開方向</p> <p>1. 畑整備における技術的課題</p> <p>2. 新たな畑整備の展開</p> <p>IV. 畑整備と地域環境管理</p> <p>1. 土壌侵食防止</p> <p>2. 持続的農業のための土管理</p> <p>3. 畑作と環境保全</p> <p>4. 環境との共存をめざした畑作の将来像</p> |
|--|--|

A5判 約210ページ 定価3,300円(税込・送料学会負担)
会員特価2,900円(税込・送料学会負担)
[会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます]

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
(社)農業農村工学会
☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494